



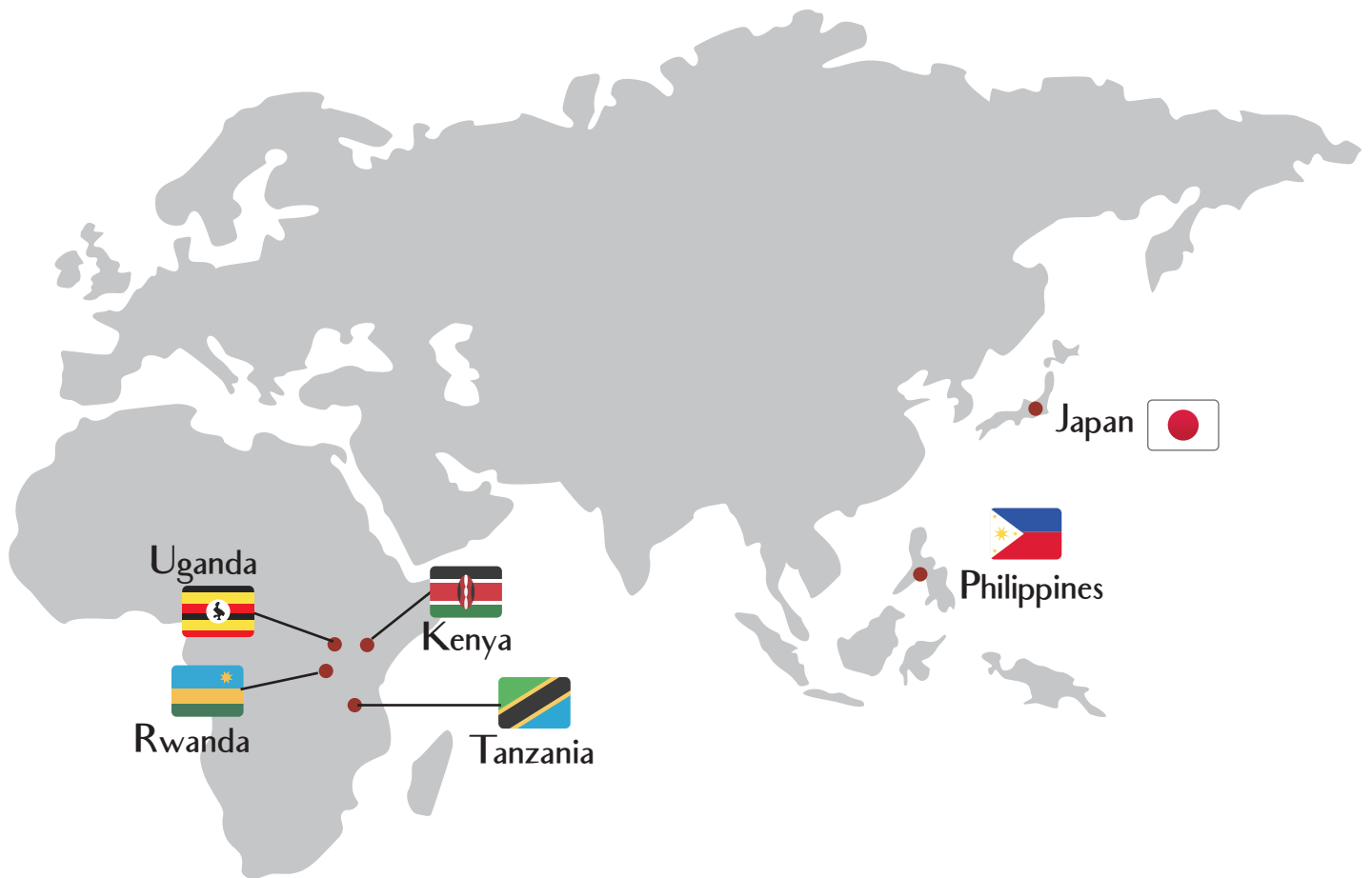
T F T
ANNUAL
REPORT

FY 2023

2023.1-2023.12

目次

03	ごあいさつ
	支援国での取り組み
04	給食プログラム
06	飢餓や栄養不良をめぐる世界の現状
07	菜園プログラム
08	パートナーシップ
	日本での取り組み
09	1億食突破 / フォーターの日の取組み
10	支援先訪問（フィリピン・ルワンダ）
12	おにぎりアクション
14	法人との取組み
	収支報告
16	活動計算書・貸借対照表
17	事業別計上収益・費用別内訳
18	来期への展望
19	運営パートナー・プロフェッショナルサポーター



ごあいさつ

日頃よりTABLE FOR TWO(TFT)の活動にご参加・ご協力を頂き誠にありがとうございます。TFTは2007年の創設以来、日本発の世界的な社会貢献活動として先進国における肥満と、開発途上国における飢餓や貧困を同時に解消すべく、幅広い取り組みを行ってまいりました。私たちの活動には創設当初から多くの方々のお力添えを頂き、これまでに1億食以上の学校給食を開発途上国の貧困地域に届けています。

TFTの支援先であるアフリカ地域では、気候変動や長引く紛争、ロシアのウクライナ侵攻に伴う食料価格の高騰、世界的なインフレーションなどの影響により、多数の人々が深刻な食料不足に陥っています。さらにロシアが黒海穀物合意からの離脱を発表したことで、穀物価格の上昇がさらに問題を深刻化させるのではと危惧されています。実際、2022年にはアフリカの全地域で飢餓人口が増加、世界平均の2倍以上の5人に1人が飢餓に直面しており、依然として世界最悪の状況にあります。この状況の中、栄養バランスの良い食事を確実に食べられる学校給食はこれまで以上に重要になり、皆さまのご支援で多くの子どもたちにその機会を提供することができます。

日本国内の活動では、社員食堂でのTFTプログラムや、健康増進プログラムに新たに参加される企業が増えています。また、開始から



9年目を迎えた「おにぎりアクション」には、過去最大数の企業、団体からご協賛・ご寄付を頂きました。32万枚を超える写真を世界中からご投稿いただき、約180万食の給食を届けることができました。

TFTの活動にご賛同いただき、心から感謝申し上げます。皆さまの温かい支援が、「TFTの食卓の輪」を通じて世界中の子供たちの未来に希望を与えています。今後も、飢餓や肥満といった社会問題に果敢に取り組み、より良い未来を築くために努力してまいります。皆さまのご支援が引き続き必要です。どうぞこれからもTFTの活動にご理解とご支援をいただければ幸いです。みな様の温かいご支援を頂けますよう、心からお願い申し上げます。

TABLE FOR TWO International 代表理事 小暮 真久

School Meals

給食プログラム ハイライト

Tanzania

2014年に開始したタンザニアのザンジバル諸島での給食支援は、当初の10校5,250名から実施校数も増えて15,200名の生徒にまで広がりました。ザンジバルでの学校給食は教育省、学校、農家グループやコミュニティを巻き込んだ包括的な体制が特徴です。当初はTFTからの支援のみで実施されていた給食プログラムですが、現在は教育省が予算の一部を拠出しています。毎日給食を提供することで出席率や試験結果が向上するなどの成果が上がってきています。その効果を高く評価したザンジバル政府教育省は、地域全体の学校給食戦略の立案を進めており、給食制度をより多くの学校で実施することを目指しています。また、給食プログラム拡大のための政府予算を確保するなど、外部支援だけに頼らないあり方を模索しています。

定番の給食メニューは豆とソルガムと呼ばれるキビを粉末にし、砂糖で味付けをしたお粥です。ビタミンAを多く含むオレンジサツマイモも給食に使われています。朝食をとらずに登校する多くの子どもたちにとって、このお粥が日中のメインの食事となります。給食の食材は地元農家から購入しています。学校に納入することで、農家は安定した収入を得られるようになりました。生徒の保護者が、農家として食材を納入しているケースもあります。

給食プログラムの中心となるのは各学校の給食委員会で、調理場の建設や調理器具の購入、調理担当者の分担などを決めます。ボランティアの保護者が調理を担当し、朝早くから火をおこしてお湯を沸かし、学校の先生が計量した食材を受け取って給食を調理します。

世界的な食料、燃料、肥料価格のインフレはTFTが給食を提供している地域にも影響を与えています。学校で食べられる温かい給食は、子どもにとっても保護者にとっても貴重な一食です。



Kenya

ビクトリア湖のルシंगा島8校とムファンガノ島1校の計9校の3,350名の生徒に給食を提供しています。湖での漁業や農業に生計を依存している家庭が多く、貧困家庭の多い地域です。生徒の保護者の多くが湖での漁業に従事していますが、魚の水揚げの多い地域を求めて住居を転々とする家族も多く、在籍生徒数の変動が激しいのもこの地域の特徴です。転校を繰り返す中で、初等教育を最終学年まで終えずにドロップアウトしてしまう子どももいます。

2023年は比較的雨に恵まれ、学校菜園での収穫も豊作でした。収穫したバナナやパイヤ、ケールや玉ねぎなどは給食の食材に使われています。週に1度、スイカやオレンジなどの果物が給食に出る日を楽しみにしている子どもも多くいます。



Rwanda

バンダ村の幼稚園児から高校生まで2,400名を対象に給食を提供しています。大釜が設置された給食室で早朝から調理を始め、ポーターが給食の入った容器を頭に載せて徒歩で各学校に運搬します。週に3回、TFTの支援による給食が提供され、他2回は政府予算による給食を子どもたちは食べています。

有機農業で育てられた豆や野菜が給食に利用されています。80名以上の保護者が分担して農作業に参加し、メイズ(1.3トン)、アマランサス(1トン)、キャベツ(420キロ)、豆(400キロ)、その他にも玉ねぎやサツマイモ、バナナなどが収穫できました(括弧内は2023年4月から9月の収穫量)。その他にも、牛乳や鶏卵も採取しています。収穫物の約半分が給食の食材に利用され、残りは農作業の従事者に配布したり、村の市場で販売したりしています。



日雇いで生計を立てる家庭も多く、病気や事故などで仕事が途切れてしまうと、家族全員の生活が危機にさらされます。

給食で使う野菜の一部は、学校菜園で育てています。休校が長く続いたため、学校給食再開と共に、野菜作りも一から再スタートしました。日本と比べると野菜は全体的に小ぶりで、葉物野菜が育ちにくい環境ですが、農業が得意な保護者が中心となって、畑や周辺環境を整えたり、収穫量を増やすための工夫を重ねています。

Philippines

フィリピン ルソン島西部のカステリヤホスのバライバイ小学校での給食プログラムは9年目を迎えました。2023年は、栄養失調と診断された約120名の生徒に学校給食を提供しました。

バライバイ小学校では8割以上の家庭の収入が、フィリピンの貧困ラインを下回っています。生活必需品の値上がりが続ぎ、日給のおよそ半分が食費という家庭も少なくありません。都市部や中東諸国への出稼ぎや



フィリピン、ルワンダについてはP10・11でも報告しています

飢餓や栄養不良をめぐる世界の現状

現状ではSDGs「飢餓をゼロに」の達成は困難か

2022年の世界の飢餓人口は最大7億8300万人と推定され、世界人口の1割に迫る勢いです。新型コロナウイルス感染症のパンデミック以前の2019年と比較して飢餓人口は1億2200万人増加しました。この傾向が続けば2030年においても6億人近くが慢性的な栄養不足状態に陥っていると推測されており、国際機関はこのままではSDGsの目標2「飢餓をゼロに」という目標の達成は難しいと警鐘を鳴らしています。*

* 出典：世界食糧計画(WFP)等の国連機関によるレポート「世界の食料安全保障と栄養の現状」2023年版

都市化の進展と農業・食料システムへの影響

アジア、アフリカ地域だけでなく世界全体を俯瞰すると、都市化の進行が人々の食生活や農業のあり方に影響を与えています。ある国の全体像を首都や都市部の状況だけから把握することはできません。従来の農村と都市という単純な分類では、農業・食料システムの現状や課題について説明できない事例が増えてきています。

例えばTFTが給食支援をしているルワンダは、ICT立国を国家戦力に掲げてIT系企業の誘致や育成に注力しています。首都キガリの中心部は整然とした街並みで、国際空港とキガリを結ぶ幹線道路はきれいに舗装されています。しかしキガリ市内でも幹線道路から離れると未舗装の道が多く、雨が降った後はぬかるんで通行に支障がでることも珍しくありません。ルワンダの都市人口のうち約4割がスラム街に住んでいると推測されています。

TFTが給食を届けているバンダ村は無電化で、舗装された幹線道路までには徒歩で1時間以上かかります。一方で携帯電話を持つ人の数は年々増え続けています。地域や国内の複雑な状況を踏まえたうえで、食料安全保障や栄養に関する政策を立案し実行することが求められています。



ルワンダの首都 キガリの賑わい



キガリの未舗装の道路



キガリからバンダ村への経由都市 ブタレ



バンダ村



教室内は無灯



携帯電話を手にする女性たち

Calorie Offset

菜園プログラム ハイライト

TFTでは、支援先地域の持続可能な開発のために、学校菜園や地域菜園を設置する支援をしています。

2023年設置菜園数 **23**箇所 累計支援菜園数 **466**箇所

(※2023年12月末)



2023年はタンザニア、ルワンダ、マラウイ、ザンビアに23カ所の菜園が、ルワンダではシードバンクが1カ所新設されました。

栽培する作物や収穫物の分配方法などの菜園の運営は、ほぼすべての菜園において、メンバー参加型で決められています。8割以上の菜園が、地元の固有種や在来種の作物を栽培しており、その比率は以前と比較して増加傾向にあります。

ほとんどの菜園はボランティアによって維持されています。菜園の担当者の男女比はおよそ半々で、約3分の1は16歳から35歳までの若い世代です。スマートフォンを持つメンバーも増えてきたことから、メッセージアプリを使って、日々の活動を報告しあったり、質問に答えたり、オンライン上で100名以上のメンバーが活発にコミュニケーションを交わしています。

地域や国単位で開催される研修会や菜園コーディネーターによる技術指導は、菜園を運営するメンバーの学びの機会になっており、病気や害虫への対処、有機肥料の作り方、種子の入手方法などの課題を解決できたと多くの菜園から声が上がりました。一方で、水の安定した確保や菜園の維持に必要な費用の工面などは課題として残っています。



地域研修でのデモンストレーション



ローカルな葉野菜Nakati (Solanum aethiopicum)の種子



タンザニアの菜園の苗床

PARTNERSHIP

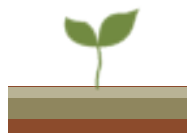
TFT では現地支援団体と提携して、学校給食の他に地域・学校菜園、農業指導、学校給食を持続可能にするための施策支援を行っています。

現地支援団体	支援国	支援内容
ACTION	フィリピン	給食 / 菜園
Foundation for Irrigation and Sustainable Development	マラウイ	給食 / 菜園
Kageno	ケニア、ルワンダ	給食 / 菜園
Ministry of Education and Vocational Training, Zanzibar	タンザニア	給食 / 菜園
Slow Food Foundation for Biodiversity	タンザニア、ルワンダ マラウイ、ザンビア等	菜園
Partnership for Child Development	タンザニア	給食 / 菜園
	ケニア	持続可能性施策
World Food Programme	アジア・アフリカ地域	給食



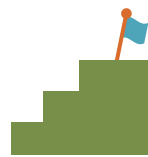
学校給食

学校や地元コミュニティと協働し、小中学校や幼稚園に通う子どもたちに温かい給食を届けています。可能な限り地元で収穫、生産された食材を活用して、栄養価の高い給食を提供しています。



地域・学校菜園、 農業指導

支援先地域の住民の多くは零細農家です。農業生産性向上のための指導やインフラ整備を実施しています。学校菜園では、収穫物を給食の食材の一部に充てています。



持続可能施策

多くの地域に共通する学校給食の課題に着目し、解決のための先進的な取り組みに着手。また中長期的に外部支援への依存比率の低減につながる、持続可能な施策に取り組みます。



JAPAN

国内の取組み

TFTでは「健康的な食生活や運動習慣を推進しながら、開発途上国へ給食を支援する活動」を多数展開しています。TFTのプログラムは、自分自身も健康になれる、日常生活の中で楽しみながら気軽に参加できる社会貢献活動であり、アイデア次第で応用できることが特長です。

1億食



累計支援給食数 1 億食を突破

「飢餓と肥満という世界の食の不均衡を解決する」というミッションを掲げ活動するTFTでは、創設以来、先進国で1食とるごとに開発途上国に1食が贈られるTABLE FOR TWO(=TFT)プログラムを推奨してきました。肥満や生活習慣病予防のために健康に配慮された定食や食品を購入すると、1食につき20円の寄付金が、TFTを通じて開発途上国の子どもの学校給食になります。20円というのはTFTが支援する地域において、給食1食分に相当します。

社員食堂を主な実施場所として始まったこの日本発の社会貢献活動は、現在では外食店や小売、スポーツなど様々なシーンに広がっています。TFTの仕組みはアイデア次第で応用でき、これまでも数多くのユニークな取り組みが生まれてきました。参加形態の幅広さから、法人の取り組みにおいては「健康意識向上」「社会貢献活動実施」など導入目的も様々です。各社のサステナビリティ方針や従業員規模、業態・業種などに合わせてプログラムを応用し、より目的に沿った取り組みとすることが可能である点も、1億食を届けるまでに活動が拡大・継続した理由の一つです。

「フォーツーマスの日」記念月間 カゴメと食を通じた初のタイアップ

4月2日は「フォーツーマスの日」

4月2日はより多くの方に、ご自身の健康づくりをしながらアフリカ・アジアの子どもたちに給食を届ける「TABLE FOR TWO(二人のための食卓)」を体験していただきたい。そんな思いから、TFTが定めた記念日です。

自分や家族の健康を願う気持ちを世界の子どもたちにも

4月1日～30日の期間中、特設サイトを通じてカゴメ通信販売「健康直送便」の対象商品を1点ご購入につき、学校給食10食をカゴメが寄付するキャンペーンを実施しました。寄付対象となった商品は、「野菜の魅力」や「おいしい」を楽しむ、カゴメ「健康直送便」の3アイテムです。自身や家族の健康を願う人々の温かな気持ちを世界の子どもたちにおすそ分けし、食を通じて世界とつながることができるようにと願いを込めました。



支援先を事務局スタッフが訪問 フィリピン／ルワンダ

コロナ禍で日本からは支援先へ訪問ができない日が続きましたが、約4年ぶりにフィリピン、ルワンダへ行き、給食や学校、子どもたちの様子を視察してきました。

Philippines

フィリピンは、全国的な学校給食の制度はありません。一度家に帰って昼食をとるというスタイルが一般的です。保護者が学校にお弁当を持ってきて一緒に食べている姿も見かけました。お弁当は、ご飯とおかず1品という組み合わせが多く、スパム、ハムなど肉類が目立ちました。フィリピンでのTFTの給食支援は、年初めの健康診断で栄養失調と判断された子どもたちを対象としています。2014年にスタートし、これまでに延べ1万人に給食を提供してきました。また、栄養講座、菜園教室、料理コンテストを開催し、親子での健康増進を図っています。2023年は、栄養失調の生徒118名でプログラムをスタートしました。

給食調理は保護者が担当

給食プログラム参加生徒の保護者、5名1チームが1週間交替で担当しています。就労などの事情により参加できない保護者もありますが、1日あたり100ペソの謝金が支払われ、公平性を保っています。給食に使う材料の野菜類は主に学校菜園で育てているものを活用、お米や肉、調味料はカステリヤホスのマーケットにて調達しています。

- ・ 朝7:30 準備スタート
- ・ 幼稚園クラス10:30、小学校低学年11:30、高学年12:00の配膳をしながら、片付けも並行で行う
- ・ 子どもたちの給食の後、保護者も給食
- ・ 片付け 13:30に終了



先生と学ぶ栄養講座

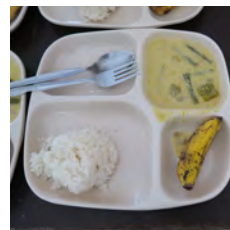
栄養講座は給食プログラム参加の保護者が受講対象となっており、学校の先生が講師を担当します。視察時は砂糖をテーマにしたワークショップを開催していました。子どもたちがよく食べるお菓子に砂糖がどのくらい含まれているかを知り、砂糖との付き合い方について考えます。それぞれの食品に含まれる実際の砂糖の量をコップに入れて並べてみると、予想を超える砂糖の多さに、保護者たちは皆びっくりしていました。



ある生徒のお弁当



生徒の保護者が給食を作る



友だちと一緒に食べる給食は楽しい





特別食プログラムを受ける母親と子ども



Rwanda

ルワンダのバンダ村では村にある3校すべてを支援しており、幼稚園から高校までのおよそ2,400人の子どもたちに給食を提供しています。加えて、栄養不良の子どもには、卵や牛乳などをプラスした特別食プログラムを実施しています。このプログラムには常時50～60名が参加、3か月ごとの経過観察を行っています。十代で出産した母親の子どもに栄養不良児が多い傾向があるといい、実際にかなり若い母親が数名参加しているのを見かけました。特別食は学校の長期休暇中も提供され、母親への栄養教育や調理指導の他、家庭菜園の作物栽培についても教えています。

コミュニティが支える学校給食

TFTが設置した大釜が5つ、水道、棚が備わったコミュニティキッチンと、政府支援の釜が2つですべての学校分の給食を調理しています。調理担当者10名(5名×2チームの交替制)と、ポーター30名によって子どもたちの元に給食が届けられます。



朝暗いうちから調理を開始

キッチンタイムスケジュール(月曜日の例)

- 04:00 スタッフ集合、食材の用意
- 05:00 ポリッジ(朝食)の攪拌
- 06:00 炊飯
- 07:00 野菜と豆を混ぜる
- 08:45 朝食提供
- 11:30 昼食運搬、片付け
- 12:00 学校に到着



キッチンで調理したものをポーターが学校まで運ぶ



コミュニティキッチンから運ばれてきた昼食は、一度学校の給食室に集められてから、各々の教室に配られます。教室では生徒に配膳させるよう促しており、高学年では女子生徒が担当していました。子どもたちに好きな給食メニューを聞くと、誰からも「米が好き」という返事が返ってきました。米はルワンダで一般的な主食ながら、他の主食に比べて高価で食べられない家庭も多いためだといいます。

大きな課題は交通と電気

バンダ村とその周辺の道路は未舗装で、徒歩、自転車、バイクが主な交通手段です。都会に出るには、舗装道路のある15km先の国立公園まで徒歩かバイクで行き、そこからバスなどに乗ります。公園から村までは高低差がある山道が続き、物資の運搬もこの道路を使います。視察期間中に運搬用のトラックが故障し、数十kgあるおかゆの原料の穀物袋を自転車で運ぶ姿を目にしました。また、バンダ村には電気が通っていません。太陽光発電パネルを設置した施設や家屋もありますが、天候に左右されるため、曇天や雨がずっと使用できなくなってしまいます。村へのアクセスの難しさがインフラ整備の遅れをもたらし、結果として村の発展を妨げている様子がうかがえました。



大好きな給食は「お米」



未舗装の道路



食材を自転車で運ぶ様子



過去最高180万食の給食を届ける～累計では1,000万食を突破

国連が定めた10月16日「世界食料デー」(世界中の人が食べ物や食料問題について考える日)を記念し、「おにぎりアクション2023」を10月4日(水)から11月17日(金)まで開催しました。キャンペーン期間中に合計32万2,300枚のおにぎり写真が投稿され、アフリカ・アジアの子どもたちに180万9,860食を届けることができました。これは投稿枚数、提供給食数ともに過去最高となり、約9,050人の1年分の給食に相当します。また、2015年のキャンペーン開始から累計での給食提供数が約1,017万食となり、1,000万食を達成しました。(特設サイト:<https://onigiri-action.com/>)

皆さまから、たくさんの素敵な写真を投稿いただき、たくさんの給食を届けることができました。

2023年参加国数	44カ国
2023年投稿枚数	32万2,300枚
2023年支援給食数	180万9,860食
おにぎりアクション累計支援食数	約1,071万食

「楽しい!」が合言葉

おにぎりアクションは、おにぎりにまつわる写真にハッシュタグ、#OnigiriActionを付けてSNSまたは特設サイトに投稿すると、協賛企業が寄付し、TFTを通じてアフリカ・アジアの子どもたちに給食5食(100円)が届く取り組みです。参加者は無料で投稿でき、期間中であれば何度でも投稿をすることが可能です。

2023年は「楽しいから参加したくなる!楽しいからシェアしたくなる」を合言葉にキャンペーンを展開しました。おにぎりの写真を投稿するというシンプルなアクションに、投稿を通じた交流や人のためになるやりがいなど様々な観点から楽しさを見出す声が、参加者から聞かれました。最終日には目標に掲げた30万枚を達成しようと参加者が互いに声を掛け合い、3万枚近くの投稿が寄せられました。

世界に広がる支援の想い

おにぎりアクションは、SNSを活用し世界中どこからでも誰でも参加できる点に特長があります。2023年は44か国からの投稿が集まりました。地域では、アジア、ヨーロッパ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニア、アフリカからの投稿があり、世界的なおにぎりブームとも相まって、日本の食文化の発信に寄与しました。おにぎりの写真には”Sending love from Hawaii!” “Thank you for Onigiri Action!”などのメッセージが添えられ、世界中に活動への共感が広がっています。



世界各国から投稿されたおにぎり写真

学校給食を届けるアクションを、メタバースやラッピングカーで楽しく後押し

Wrapping Car

日産セレナおにぎりアクション号

トップスポンサーの日産セレナは、6年目の参加となる今回、初の試みとして特別なラッピングを施した「日産セレナおにぎりアクション号」を制作し、本アクションの協力企業・団体と連携した各所での展示を行いました。セイコーエプソンがスポンサーを務める松本山雅FCの試合会場や、宮城米マーケティング推進機構とともに東北学院大学の学祭・地域イベント、オイシックス・ラ・大地がサービスを提供する保育園の食育イベント、ニコニコのりとともにキッチンカー

イベントにも登場し、各地で盛り上げました。一般イベントへの参加でおにぎりアクションを初めて知る方との接点も生まれました。

その他、セブン-イレブン・ジャパンは全国の店舗でポスターを掲示しアクションを呼びかけました。ポスターを見ておにぎりアクションを知ったという参加者も見られ、SNSでは接点を持てなかった層への訴求によりおにぎりアクション参加者の幅を広げています。



松本山雅FC試合会場での日産セレナおにぎりアクション号

Metaverse

メタバースで支援先を仮想訪問

ルワンダのバンダ村を仮想訪問できるメタバース空間を、D株式会社様にご協力いただき、制作しました。子どもたちが通う幼稚園や小学校、給食を作っているキッチンや菜園を再現。アバターで支援先を周遊するツアーや動画、写真展示などを通じて、支援先の“今”を体感できる仕組みも用意しました。その他、支援先クイズなどのコンテンツも加えることで、楽しみながら支援先への理解が深められるように工夫をしました。



メタバースで再現された教室内と建物

Short Movie

小・中・高校生のチャレンジ動画を募集

小学生、中学生、高校生に向けて、「飢餓のない世界を作りたい!そのためにチャレンジしたいこと」をテーマにショート動画を募集するプロジェクト『飢餓のない世界へ!みんなのチャレンジ』を初開催しました。応募動画1作品につき、学校給食5食分の寄付となる本企画には、全国からたくさんの想いのこもった動画が集まりました。



より多くの人がご飯を食べるように

応募作品の一コマ


Partner 法人との取組み

2023年度は約700の企業・団体様がTFTの活動にご参加、ご支援いただきました。寄付つき商品の販売や普段の生活で貯めたポイントを寄付できる仕組みも、手軽にできる社会貢献とし浸透しています。また、社員食堂でのヘルシーメニューの提供や、定番となった健康増進のウォーキングキャンペーンでは、「グループ企業間のコミュニケーション活性化」をキーワードに工夫した取組みが見られ、とても印象的でした。その一例をご紹介します。

TFTご参加企業・団体一覧は下記よりご覧いただけます。
<https://jp.tablefor2.org/business/partner/>

TFT×食育合同企画 株式会社アイシン
2010～継続中

株式会社アイシンでは、2023年2月の健康増進月間に健康推進室と連携し「TFT×食育合同企画」を実施しました。社員の健康増進やメタボ予防を目的に、1日に必要な野菜の1/3がとれるメニュー等を提供し、TFTにご寄付いただきました。



グループ間の横の繋がりを意識したアイデアメニューで大賞受賞 東洋製罐グループ
2018.02～継続中

東洋製罐グループでは2018年より社員食堂にてTFTメニューを提供しており、TFTアワード2023において、メニュー・ドリンク部門大賞を受賞しました。受賞したメニュー「グループ会社事業所がある地域のご当地メニュー」は、北海道豚丼や大分県ひゅうがが丼など、グループの事業所所在地のご当地メニューを提供することで、グループ会社の横の繋がりを意識してより良い業務につなげてほしいという想いを込めて発案されました。



給与天引きプログラム 単発型・サブスク型が選べる 株式会社ホンダテクノフォート
2020.02～継続中

株式会社ホンダテクノフォートでは、従業員WEBサイトでの事前申込みによる給与天引きで、TFTプログラムを実施しています。「今日だけ参加(単発型)」と「今月からずっと参加(サブスク型)」が選べますが、参加者の9割以上がサブスク型で継続参加しています。多様な働き方や職場環境問わず気軽に参加できる取り組みです。




グループで10年連続TFTプラチナパートナー パナソニックグループ
2009.08～継続中

パナソニックグループが取り組む企業市民活動の3つの重点テーマの1つである「貧困の解消」と、教育の機会創出を通じた貧困の解消にも貢献するTFTの取組みが合致していることから、2009年よりTFTメニューを提供しています。2013年以降、10年連続でTFTプラチナパートナーに認定されました。2023年度は在宅勤務が定着して食堂の利用者数が減少しましたが、国内12ヵ所の社員食堂で継続的に活動を実施しました。また食堂がない14拠点では、自動販売機の売り上げの一部を寄付する「CUP FOR TWO」を導入し、合計26ヵ所で支援を行っています。

参加者平均歩数×10倍を寄付! ポーラ・オルビスグループ
2023.05

ポーラ・オルビスグループでは、2023年5月1日～5月31日の間、社員の健康増進と社会貢献を兼ねて、参加者平均歩数の10倍額を寄付するチャリティーウォーキングラリーを実施しました。社員エントリー数は過去最高(昨年比115%)となり、約3,797食の給食を届けました。グループ横断でチームを作って参加するなど、垣根を越えたコミュニケーションの活性化にも繋がりました。



**幸せのおすそわけ
寄付つきギフト**

ちきり清水商店株式会社

2023.01～継続中

ちきり清水商店では、だしギフト「TFT-2」「TFT-4」を購入いただくと、1ギフトにつき20円が寄付されます。パッケージには「大人の手が持つ箸から派生した線は、やがて子どもの持つスプーンへ届いていく」という想いが表現されています。



**1ポイント=1円相当
Vポイント募金**

CCCMKホールディングス

2012.10～継続中

CCCMKホールディングスが運営する「Vポイント募金」はVポイントの使い道として、「自分のために使う、交換する」に加えて、「みんなのために使う」という考え方を取り入れたもので、貯めたVポイント1ポイントを募金額1円相当として、指定する団体へ寄付することができます。TFTはこのVポイント募金先として、2012年より登録いただいております、2023年までに約90万ポイントのご寄付をいただきました。

※Vポイント=旧Tポイント。2024年4月22日にVポイントにリニューアル。

**オリジナルラッピングで啓発
自販機プログラムCFTをサポート**

キリンバレッジ株式会社

2010.04～継続中

キリンバレッジ株式会社は、2010年から「CUP FOR TWO (CFT)プログラム」のパートナーとして活動を広げています。ヘルシードリンクに寄付をつけて販売するCFTでは、手軽で啓発効果の高い自動販売機での導入が進んでおり、オリジナルのTFTラッピング自販機を製作するなど積極的な取り組みで多くの企業のCFT導入をサポートしています。



**コーヒー粉を再利用した
サステナブルなタンブラー**

JALグループ

2023.11～継続中

JALグループは、「社会課題を解決し、サステナブルな人流・商流・物流を創出する」というESG戦略のもと、各事業のプロセスにおける4Rを推進しています。その一環として、羽田空港国内線JALラウンジやオフィスで提供するコーヒーを抽出した後の粉を再利用し作られた「JALオリジナルタンブラー」を販売しています。食品廃棄物の削減・石油由来のプラスチック量削減に貢献した地球にやさしいタンブラーは、1点ご購入につき20円が寄付されます。



**ポイントシールを集めて
給食10食分を寄付**

アンデルセングループ

2019.10～継続中

ベーカリー「アンデルセン」と「リトルマーメイド」の「マーガレット・クラブ」加盟店で200円(税抜)購入ごとにもらえるマーガレット・クラブシール。シールの点数に応じて交換する記念品にTFTへの寄付を設けています。シール1冊(50点)で、給食10食分を寄付できます。2023年12月までの寄付累計は12,414冊となり、12万食分を超えるご寄付をいただきました。



寄付つきバレンタイン商品

オイシックス・ラ・大地株式会社

2023.02

これまで捨てられていた食材を新しい商品へと生まれ変わらせ地球と身体にやさしい新しい食の楽しみ方を広げていく、フードロス解決型のブランド「Upcycle by Oisix」からバレンタイン向けの商品3品をTFT寄付つきで販売しました。未活用「りんごの皮」や「梅酒の梅」などをアップサイクルしました。



収支報告

今期は一般正味財産の収益合計が210,957千円、費用合計は181,391千円となり、指定正味財産への振替14,755千円を差し引いて、14,810千円の黒字となりました。一般正味財産の残高は、前年度の繰越とあわせ、124,061千円となりました。

収益は、コロナ禍前のような行動制限のない日常生活が戻りつつある中、事業寄付金収益が168,699千円と前年の108% (156,612千円) に増加しました。イベント・講演(啓発事業収益)は、52,529千円と前年の105% (50,120千円) に増加しました。その要因はおにぎりアクションへの協賛団体の増加によるものです。事務局運営のため協賛金(受取寄付金)は、1,424千円でした。

活動計算書 2023年1月1日～2023年12月31日 (単位:円)

科目	金額		
	一般正味財産増減(注1)	指定正味財産増減(注1)	合計
収益(注2)			
受取会費	130,000	-	130,000
受取寄付金	1,423,633	-	1,423,633
事業寄付金収益(注1)	33,739,943	134,959,772	168,699,715
啓発事業収益	52,529,358	-	52,529,358
その他	3,152	-	3,152
一般正味財産への振替額(注1)	123,131,155	△123,131,155	0
収益計	210,957,241	11,828,617	222,785,858
費用(注3)			
事業支払寄付金	119,913,607	-	119,913,607
人件費・外注費	47,824,371	-	47,824,371
事務所管理費	2,838,285	-	2,838,285
活動費	2,641,357	-	2,641,357
その他	8,174,016	-	8,174,016
費用計	181,391,636	-	181,391,636
指定正味財産への振替額(注1)	△14,755,011	14,755,011	0
当期正味財産増減額	14,810,594	26,583,628	41,394,222
前期繰越正味財産額	109,250,481	212,354,427	321,604,908
次期繰越正味財産額	124,061,075	238,938,055	362,999,130

(注1)収益のうち、使途が指定された寄付金や助成金を「指定正味財産」、その他を「一般正味財産」として管理しています。具体的には、事業を通じて受入れた寄付金の8割に相当する金額(134,959,772円)を「指定正味財産増減」の区分に記載しています。また、事業を通じて受入れた寄付金のうち、残り2割に相当する事業寄付金収益(33,739,943円)や、受取寄付金(事務局運営資金のために頂いたご寄付)及び啓発事業収益(講演料、イベント収入等)については、「一般正味財産増減」の区分に記載しています。また、使途が制約された寄付金を提携機関に送金した時点で、同額を指定正味財産から一般正味財産に振り替えると同時に、事業支払寄付金として費用計上していません。指定正味財産への振替額は、啓発事業(おにぎりアクション)からのみなし寄付金金額です。

(注2)収益の各科目の詳細は以下の通りです。

「受取会費」: 正会員の会費 / 「受取寄付金」: 事務局運営のための寄付
「事業寄付金収益」: 開発途上国での学校給食・農業支援活動のための寄付
「啓発事業収益」: 講演料等 / 「その他」: 受取利息等の雑収益
「一般正味財産への振替額」: 注1のご説明をご参照ください

(注3)費用の各科目の詳細は以下の通りです。

「事業支払寄付金」: 開発途上国での学校給食・農業支援活動のために提携機関へ送金した寄付
「人件費・外注費」: 職員給与、社会保険料、外部への業務委託費
「事務所管理費」: 家賃、水道光熱費、リース料等
「活動費」: 旅費交通費、会議費等 / 「その他」: 租税公課、振込手数料等

貸借対照表 2023年12月31日現在 (単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】(注6)	
現金預金	135,759,116	未払金	6,913,294
未収入金	3,521,676	未払費用	3,631,451
前払費用	484,000	預り金	1,350,559
寄付予定特定資産(注4)	238,938,055	仮受金	89,430
流動資産計	378,702,847	流動負債計	11,984,734
【固定資産】		【固定負債】	
ソフトウェア	2,817,833	長期借入金	10,500,000
敷金	595,850	固定負債計	10,500,000
出資金(注5)	3,292,000	負債の部合計	22,484,734
長期前払費用	75,334		
固定資産計	6,781,017	正味財産の部(注7)	
		指定正味財産	238,938,055
		一般正味財産	124,061,075
		正味財産の部合計	362,999,130
資産の部合計	385,483,864	負債・正味財産合計	385,483,864

(注4)事業を通じて受入れた寄付金のうち、提携機関に送付する寄付金は使途が制約された資産であるため、「寄付予定特定資産」として記載しています。

(注5)欧州展開のため2017年11月にドイツに設立した現地法人(gGmbH/非営利目的有限会社)TABLE FOR TWO Deutschlandへの出資金です。

(注6)流動負債の各科目の詳細は以下の通りです。

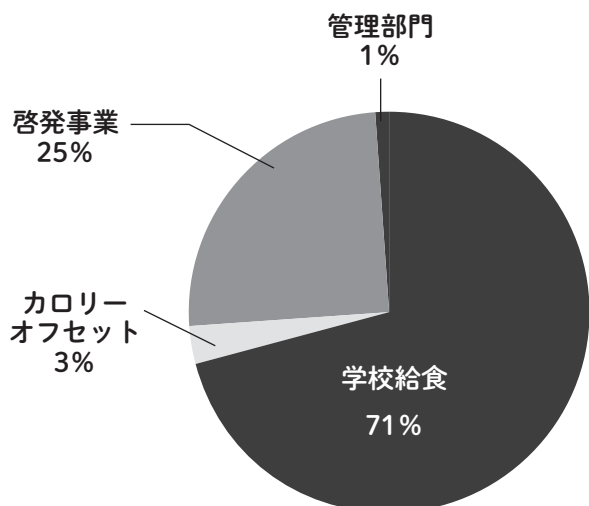
「未払金」: 2024年1月に支払予定の各種費用(水道光熱費、通信費等)、未払法人消費税等
「未払費用」: 2024年1月に支払予定の人件費
「預り金」: 職員給与から控除し、2024年に支配予定の社会保険料・源泉税

(注7)事業を通じて受入れた寄付金については使途が制約されたものとして指定正味財産の区分に、その他については一般正味財産の区分に記載しています。

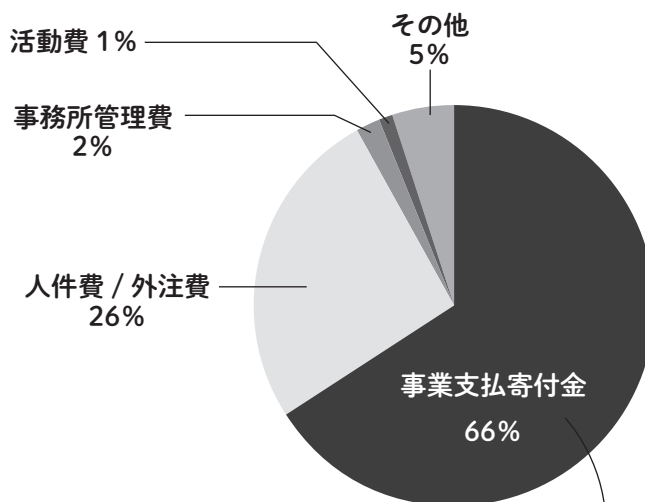
※この財務報告は、理事会ならびに総会の承認を経て東京都へ提出した財務諸表の抜粋です。

収支報告

事業別計上収益 (%)



費用別内訳 (%)



寄付金送金先一覧 (2023年1月～12月31日 単位:円)

提携機関	プロジェクト実施地域	送金金額
Kageno Worldwide Inc.	ケニア / ルワンダ	54,146,605
Ministry of Education and Vocational Training, Zanzibar	タンザニア	41,269,210
Imperial College of Science, Technology and Medicine	タンザニア	9,495,850
国際連合世界食糧計画 WFP協会	アジア・アフリカ地域等	5,309,112
The Slow Food Foundation for Biodiversity Onlus	タンザニア / ルワンダ / マラウイ / ザンビア	5,272,750
NPO法人 ACTION	フィリピン	2,189,520
Foundation for Irrigation and Sustainable Development	マラウイ	2,230,560

合計 119,913,607

PROSPECTS

来期への展望

第17期の決算となった今期(2023年)は、政府が新型コロナウイルスの感染法上の分類を、季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げ、行動制限のない日常生活がほぼ戻ってまいりました。それに伴い、社員食堂を中心としたTFTプログラムは収益が前年を超え、特に自動販売機は前年比約127%の伸びを見せました。そして、皆さまの温かいご支援のおかげで、夏には累計支援給食数も1億食を突破いたしました。社会貢献活動に留まらず、社会性と経済性の両立をはかり、規模の拡大と持続可能な活動を目指して開催してきた「おにぎりアクション」ですが、2024年の開催をもちまして10回目となります。この記念すべき年を皆様と一緒に盛り上げていきたいと思いを。また、TFTが今まで手薄であった領域で、食の不均衡解決に取り組めるようなプログラムを本格始動させます。既存プログラムの改善や新規法人の開拓についても、引き続き進めてまいります。

団体概要

正式名称	特定非営利活動法人TABLE FOR TWO International
設立	2007年10月24日
種別	租税特別措置法第六十六条の十一の二第三項に規定する認定NPO法人
HP	http://jp.tablefor2.org/
役員	代表理事 小暮 真久 理事 黒松 敦 (株式会社ミテリ・アソシエイツ 代表取締役) 佐藤 俊司 (TMI 総合法律事務所 パートナー 弁理士) 牧 辰人 (SCS-Invictus パートナー 公認会計士) 監事 渡辺 伸行 (TMI 総合法律事務所 パートナー 弁護士)
決算期	12月31日
活動内容	先進国でのヘルシーメニュー提供や啓発活動等のプログラム実施によって得た寄付を通じての開発途上国への学校給食支援を中核に、開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病の解消に同時に取り組む 支援国 ウガンダ共和国、ケニア共和国、ルワンダ共和国、フィリピン共和国、タンザニア連合共和国、マラウィ共和国 参加団体数 685社・団体 (日本国内2023年12月31日時点)

いつもご支援ご協力をいただき、ありがとうございます

運営パートナー企業様にはTFTの輪を広げ、社会事業を育成するために運営資金面でのご支援を、プロフェッショナル・サポーターの皆さまには法務、財務、ウェブなどの専門的な分野でご協力いただいています。

運営パートナー

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス

プロフェッショナル・サポーター

株式会社セールスフォース・ジャパン

Salesforce ライセンスを無償提供

株式会社電通

TFT 活動を周知するためのツール制作

Soi 株式会社

TFT 活動を周知するための動画・音楽制作

渡辺 伸行 様 (TMI 総合法律事務所弁護士)

佐藤 俊司 様 (TMI 総合法律事務所弁理士)

小林 奈央 様 (TMI 総合法律事務所弁理士)

村瀬 悟 様 (米国弁護士、TFT米国理事、ジャパンソサエティー常務理事)

鎌田 幸子 様 (司法書士)

遠藤 恭子 様 (社会保険労務士)

林 万里子 様 (税理士)

矢花 宏太 様 (企画 / プロデュース)

藤田 卓也 様 (企画 / プロデュース)

大久保里美 様 (企画 / デザイン)

大淵 玉美 様 (企画 / デザイン)

大野 尚子 様 (管理栄養士)

飛澤 知則 様 (WEB プログラマー)

森 美奈子 様 (摂南大学講師)

久井 裕美 様 (企業法務)